

## P2-11-4 ACL 再建術後症例のスポーツ復帰レベルと身体運動機能との関係

### The relation of sports activity level and physical function in the patients after ACL reconstruction

<sup>1</sup>恩賜財団済生会八幡総合病院リハビリテーション部, <sup>2</sup>恩賜財団済生会八幡総合病院整形外科,  
<sup>3</sup>恩賜財団済生会八幡総合病院リハビリテーション科, <sup>4</sup>社会医療法人 製鉄記念八幡病院リハビリテーション部  
 ○森口 晃一<sup>1</sup>, 原口 和史<sup>2,3</sup>, 松浦 恒明<sup>2</sup>, 日野 敏明<sup>1</sup>, 中西 純菜<sup>1</sup>, 河上 淳一<sup>1</sup>, 藤戸 郁久<sup>1</sup>,  
 鈴木 裕也<sup>4</sup>

スポーツ活動によりACL損傷を受傷し2004年3月から2009年10月にACL再建術を施行しスポーツ復帰を目指した症例33例を対象に,術後1年でのスポーツ復帰状況と術後6ヵ月時に実施した身体運動機能評価との関係を検討した。身体運動機能評価では,片脚スクワット動作中の前額面における骨盤傾斜の程度で良好,不良と判定した。

8割以上のレベルでスポーツ活動中が20例,8割未満が11例(このうち再建膝の再外傷5例),復帰断念1例,不明1例であった。片脚スクワット動作評価の結果は,8割以上のレベルでは良好18例だったのに対し,再外傷5例を含む8割未満の11例では良好2例であり,復帰には詳細な運動機能の評価が必要である。

## P2-11-5 ACL 損傷予防からみた古武術動作

### Utility of movements in Kobudo (traditional martial art) for prevention of ACL rupture

<sup>1</sup>厚生連高岡病院整形外科, <sup>2</sup>厚生連高岡病院リハビリテーション科

○丸箸 兆延<sup>1</sup>, 中村 拓人<sup>2</sup>

古武術において用いる動作が身体への負荷を低減すると仮説をたて,2つの動作につき床反力を測定した。1)停止からダッシュ:左右ともに従来法と比し古武術法は支持脚の垂直下方床反力は右で約67%,左で約57%に減少し,進行方向と反対方向の床反力は右で約44.3%,左で41.1%に減少した。2)ダッシュから180°ターン:ターン中の床反力は従来法よりも古武術法が約16%大きかった。古武術は,パフォーマンスの向上とともにACLの予防にも効果をもたらす可能性のある動作があると考え,一方で,短時間の練習では負荷を増加させる動作もあるため注意が必要である。

## P2-11-6 当院におけるスポーツによる舟状骨骨折の検討

### Clinical results of scaphoid fracture in athletic injury

諏訪赤十字病院

○佐々木 純, 百瀬 敏充, 高沢 彰, 小林 千益, 中川 浩之

【はじめに】今回われわれは当院において加療したスポーツによる舟状骨骨折について検討したので報告する。  
 【対象および方法】当科において加療したスポーツによる舟状骨骨折15例15手を対象とした。全例男性で,年齢は平均22歳であった。スポーツ種目はスノーボード6例,サッカー5例,その他4例であった。手術法は全例Herbert screwによる観血的整復固定術を行った。評価は術後の疼痛,握力,可動域,DASH,X線所見を調べた。  
 【結果】術後全例で疼痛は改善し,X線上骨癒合を認めた。術後握力,可動域は良好で,術後DASHは3.0であった。  
 【考察】当院はスキー場に近く,スノーボードによる受傷が多かった。

## P2-11-7 高校剣道選手の足部障害に対して当院で開発した装具の効果

### The effect of sumiya hospital was developed foot orthoses for the injury of junior kendo athletes

<sup>1</sup>医療法人スミヤ 角谷整形外科病院 リハビリテーション科, <sup>2</sup>医療法人スミヤ 角谷整形外科病院 整形外科,  
<sup>3</sup>和歌山県立医科大学 整形外科

○貴志 真也<sup>1</sup>, 柏木 孝介<sup>1</sup>, 貴志 悠矢<sup>1</sup>, 川上 基好<sup>1</sup>, 中根 康博<sup>2</sup>, 角谷 昭一<sup>1,2</sup>, 岩崎 正文<sup>2</sup>,  
 吉田 宗人<sup>3</sup>

剣道選手の右足底部障害は,再発するケースが非常に多い。当院では再発予防を目的に装具を開発したので紹介し,その有効性について報告する。対象は,当院を受診した高校剣道選手5名(男子2名,女子3名)で,症例内訳は種子骨炎2例,足底筋膜炎2例,踵骨炎1例である。当院で開発した装具は,剣道用足袋と踵サポーターの底を2重構造にし,その中にオーダーメイドの足底板を挿入し,アーチ引き上げのストラップを装着したものである。本装具を装着して練習を行うと疼痛再発は認められず,1~2ヵ月間で徐々に装具を除去,再発は認められなかったことより,当院で開発した装具は,リハビリテーションと併用することで再発防止に有効と考える。

## P2-11-8 アスリートにおける1型コラーゲンペプチド摂取が関節バイオマーカーに及ぼす効果

### Effects of Type 1 Collagen Peptide on Biomarkers for Cartilage and Bone Metabolism in Athletes

鳥取大学整形外科

○村上 大気, 榎田 誠, 藤田 章啓, 柳楽 慶太, 岡野 徹, 豊島 良太

運動部員を対象に運動負荷試験を行い,コラーゲンペプチド摂取による関節バイオマーカーの経時変化を調査した。対象は運動部男子学生20名,プラセボ対照二重盲検試験とした。被験食群(C群)は1型コラーゲンペプチドを1日10g,対照群(P群)はプラセボを14日間摂取した。摂取前・後の血清オステオカルシン及び血清NTxはC群とP群の間に有意な差はなく,運動負荷前後の血清MMP-3の経時変化も摂取前後で群間に有意な差はなかった。コラーゲンペプチドには,持久力向上や筋組織破壊予防効果の可能性があるとの見解を得ているが,今回はコラーゲンペプチドの関節傷害の予防効果を評価するため関節バイオマーカーには有意な結果は得られなかった。

## P2-11-9 アスリートにおける1型コラーゲンペプチドの運動負荷に対する抗疲労効果

### Suppression Effects of Type 1 Collagen Peptide on Physical Load-induced Fatigue in Athletes

鳥取大学整形外科

○藤田 章啓, 榎田 誠, 村上 大気, 柳楽 慶太, 岡野 徹, 豊島 良太

【目的】運動部員を対象に,コラーゲンペプチド摂取が疲労度と与える影響を検討する。【対象と方法】当大学医学部の運動部男子学生20名を対象とし,プラセボ対照二重盲検試験を行った。被験食群(C群)は1型コラーゲンペプチドを1日10g,対照群(P群)はプラセボを14日間摂取した。運動負荷前後での身体的パフォーマンス,疲労度を評価した。【結果】C群では血液検査において,CKの有意な低下,グルコース低下の抑制が見られた。その他の項目では両群間で有意差はなかった。【考察】コラーゲンペプチド摂取による抗疲労効果は明らかではなかったが,持久力向上や筋組織破壊を抑制する効果を有す可能性が示唆された。